

AC 検電 デジタルテスター

(型番 TST-TAC26)

(品番 08-1290)

保証書付 取扱説明書



この度は弊社のAC検電デジタルテスターをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。お読みになったあとも大切に保管し、必要なときにお読みください。

安全な測定をするために!!

感電事故を防止して安全な測定をするために、説明書をよく読んでからテスターを使ってください。特にテスター本体及び説明書の中の ⚠ 記号のついている所は重要です。



この記号はIEC規格およびISO規格に定められている記号で、説明書をよく読んでから本製品をご使用くださいということを表しています。



警告

この表示はその内容を守らずに誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示しています。



注意

この表示はその内容を守らずに誤った取り扱いをすると、人が負傷したり物的損害を発生させる可能性があることを示しています。

警告

強電回路の測定は非常に危険です。このテスターでは、6kVA以上の強電回路は測定しないでください。強電回路(電路)には、しばしば高いサージ電圧が重畳して、これが爆発的短絡の誘因となります。危険な回路の電圧測定では、身体のいかなる部分も回路に接触しないようご注意ください。

はじめに

この度は、AC検電デジタルテスター TST-TAC26をご選定いただき、誠にありがとうございます。このテスターでは、直流及び交流電圧から、検電、抵抗、導通試験、ダイオード、静電容量まで広い測定ができます。説明書をよくお読みのうえ、安全な測定をしてください。

1. 包装内容の確認

本製品は下記の内容で構成されています。万一、不具合や付属品の欠品などがありましたら、販売店または弊社までご連絡ください。

- | | |
|--------------------|----------|
| 1. デジタルテスター | 1台 |
| 2. 3V CR2032 ボタン電池 | 1個(本体内蔵) |
| 3. 保証書付取扱説明書 | 1部 |

2. 仕様

2-1. 一般仕様

- 表示板(LCD)
 - 数字表示 : 3000カウント、文字高14mm
 - 単位及びサイン : SCAN, AUTO, DH, mV, V, nF, μ F, mF, Ω , K Ω , M Ω , APO, $\sim$, $\rightarrow$, $\leftarrow$, $\sim$, $-$, $\blacksquare$, 及び小数点
- 動作原理 : 二重積分型
- レンジ切換 : オートレンジ
- サンプリング速度 : 4回/秒
- 極性表示 : 自動(“-”表示のみ点灯)
- オーバーレンジ表示 : OLが点灯
- 表示固定 : LCD表示を固定
- 機能選択 : 機能の選択
- 導通試験 : LCD上に $\rightarrow$ サイン及び約30 Ω 以下でブザー。
- 電池消耗表示 : 約2.3V以下で $\blacksquare$ サインが点灯。
- 使用温・湿度 : 0 $^{\circ}$ C $\sim$ 40 $^{\circ}$ C, 80%RH以下(結露のないこと)
- 保存温・湿度 : -20 $^{\circ}$ C $\sim$ 60 $^{\circ}$ C, 70%RH以下(結露のないこと)
- 電源 : 3V CR2032 ボタン電池1個
- 消費電力 : 2.5mA 標準
- 電池耐久時間 : 100時間以上の連続使用可能
- オートパワーオフ : 電源ON、又は各スイッチの切換後約10分で、自動的に表示が消えてパワーセーブ。

- 耐電圧 : 3.6 kV 1分間(入力端子とケース間)
- 過負荷保護
 - V : 最大 900V DC または AC RMS(1分間)
 - Ω / $\rightarrow$ / $\leftarrow$ / F : 最大 600V RMS(1分間)
- 安全基準 : CEマーク認証 IEC-61010-1, CAT III 300V, CAT II 600V 及びEMCテスト合格
- 寸法・重量 : 幅57 $\times$ 高さ119 $\times$ 奥行9mm、約72g(電池含む)
- 付属品 : 3V CR2032 ボタン電池1個(内蔵)、保証書付取扱説明書
- 別売付属品 : ワニグチクリップ (09-2001)

2-2. 測定仕様 (23 $^{\circ}$ C $\pm$ 5 $^{\circ}$ C、80%RH以下、ただし結露のないこと)

1. 直流電圧 ($\sim$ V)

レンジ	測定確度	分解能	入力抵抗	最大許容値	過負荷保護
3.000 V	±0.5%rdg±3dgt	1 mV	≒11MΩ	600V DC	900V rms 1分間
30.00 V		10 mV	≒10MΩ		
300.0 V		100 mV			
600 V		1 V			

2. 交流電圧 ($\sim$ V)

平均値整流

レンジ	測定確度	分解能	入力抵抗	最大許容値	過負荷保護
3.000 V	±1.5%rdg±5dgt	1 mV	≒12MΩ	600V AC	900V rms 1分間
30.00 V		10 mV	≒10MΩ		
300.0 V		100 mV			
600 V		1 V			

周波数特性 : 50Hz $\sim$ 400Hz

3. 抵抗 (Ω)

レンジ	測定精度	分解能	試験電流	開放電圧	過負荷保護
300.0 Ω	$\pm 1.5\% \text{rdg} \pm 4 \text{dgt}$	0.1 Ω	$\leq 1.4 \text{mA}$	約1.33V	600V rms 1分間
3.000 k Ω		1 Ω	$\leq 0.5 \text{mA}$		
30.00 k Ω	$\pm 1.0\% \text{rdg} \pm 3 \text{dgt}$	10 Ω	$\leq 80 \mu\text{A}$		
300.0 k Ω		100 Ω	$\leq 9 \mu\text{A}$		
3.000 M Ω	$\pm 3.0\% \text{rdg} \pm 3 \text{dgt}$	1 k Ω	$\leq 0.9 \mu\text{A}$	約0.86V	600V rms 1分間
30.00 M Ω		10 k Ω	$\leq 90 \text{nA}$		

30.00M Ω レンジ:自動探知(Scan)モード時無し、機能選択(Auto)時のみ有り。
300.0M Ω レンジ:約30 Ω 以下の時、ブザーが鳴ります。

4. 導通試験 ($\rightarrow$)

レンジ	ブザー抵抗	応答時間	開放端子間電圧	過負荷保護
300.0 Ω	約 30 Ω 以下	約1m sec	約 1.2 V	600V rms

5. ダイオードテスト ($\rightarrow$)

レンジ	測定精度	試験電流	開放端子間電圧	過負荷保護
2.000V	$\pm 5.0\% \text{rdg} \pm 4 \text{dgt}$	$\leq 2.5 \text{mA}$	$\leq 2.5 \text{V}$	600V rms

約30mV以下の時、ブザーが鳴ります。

6. 静電容量 (μ F)

レンジ	測定精度	分解能	試験電圧	過負荷保護
3.000 nF	$\pm 5.0\% \text{rdg} \pm 10 \text{dgt}$	1pF	$\leq 1.7 \text{V}$	600V rms 1分間
30.00 nF		10pF		
300.0 nF		100pF		
3.000 μ F		1nF		
30.00 μ F		10nF		
300.0 μ F		100nF		
3.000 mF	$\pm 20\% \text{rdg} \pm 10 \text{dgt}$	1 μ F		
30.00 mF		10 μ F		

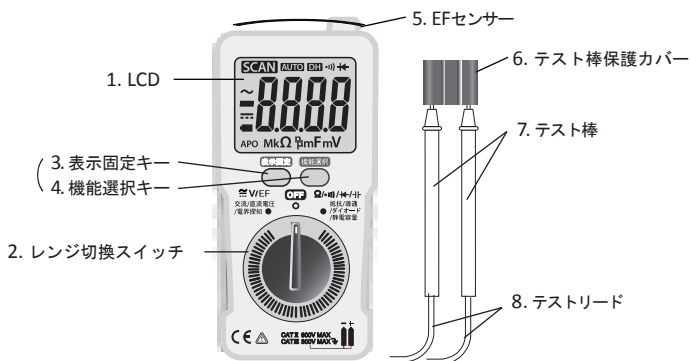
3.000mF/30.00mFレンジは機能選択(Auto)時のみ。

7. 検電機能(EF)

電磁波強度をブザーとLCD表示で確認することができます。

弱“-”“-”“-”“-”“-”-強

3. 各部の名称と機能



3-1. 表示板 (LCD)

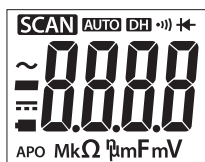


図-2

≡	: 直流のサイン
~	: 交流のサイン
-	: 極性がマイナス (+サインは表示されません)
SCAN	: 自動探知
AUTO	: オートレンジ
DH	: 表示固定
•	: 導通試験
⚡	: ダイオードテスト
🔋	: 電池が消耗した時点灯
APO	: オートパワーオフ
Ω, kΩ, MΩ	: 抵抗測定単位
mV, V	: 電圧測定単位
nF, μF, mF	: 静電容量単位

3-2. レンジ切換スイッチ

電源及び自動探知(SCAN)モードに入るためのスイッチです。

☹ V/EF: 交流電圧、直流電圧を自動識別(SCAN)して測定します。

Ω/•|||/⚡/H: 抵抗導通ダイオード静電容量を自動識別(SCAN)して測定します。

*EF(検電)機能はSCANモードでは使用できないため、機能選択キーを押して選択してください。

*測定終了後は必ずOFFの位置に戻してください。

3-3. 表示固定キー (DH)

このキーを0.5秒以下押すと、DHが点灯して測定値が固定されます。再度押すとDHが解除されます。

このキーを2秒以上押すと、DHが点滅、6秒後にDHが点灯し測定値が固定されます。再度押すとDHが解除されます。両手でテスト棒を持っている場合は便利な機能です。

3-4. 機能選択キー

自動探知(SCAN)モードを解除し、手動で測定モードを切り換えたい場合、このキーを0.5秒以下づつ押すと、各測定要素が次のように切り換わります。

☹ V/EF: ~V(交流電圧)→ ≡V(直流電圧)→ EF(検電)→ SCAN(自動探知)

Ω/•|||/⚡/H: Ω(抵抗)→ •|||(導通)→ ⚡(ダイオード)→ H(静電容量)→ SCAN

*自動探知(SCAN)モード解除中はLCD上の“SCAN”が消灯します。

*機能選択キーを2秒以上長押しすると、電源OFFになります。再度2秒以上長押しすると、電源ONとなります。

3-5. EFセンサー

検電をする場合は、EFセンサー部分を測定したい場所に当ててください。ブザーとLCD表示で電磁波の強度を確認することができます。

3-6. テスト棒保護カバーとテストリード

使用後は、テストリードを本体に対して縦巻きにした後、テスト棒保護カバーにテスト棒を差し込むときれいにかたづけすることができます。

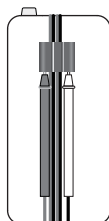


図-3

4. 安全測定と使用上のご注意

4-1. 電気事故の防止

人体への感電事故防止とテストの損傷防止のため、次の事項をよく理解し厳守して、安全な測定をしてください。

1. テスト棒とテスター本体のチェック

⚠警告: テスターは測定前にケースの割れや濡れがないか点検のうえ、常にきれいにしておいてください。テストリードに断線や絶縁不良がないか常に確認してください。

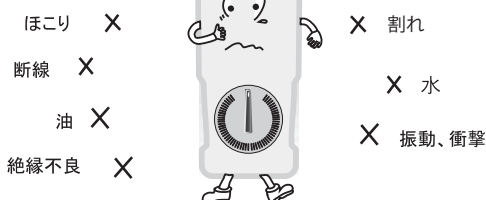


図-4

2. 強電回路の測定についての警告

⚠警告: 強電回路(大型モーター、配電用トランス、ブスバーなどへの電気容量の大きい工場内外の動力線など)は測定しないでください。強電回路には高サージ電圧が重畳している可能性があり、爆発的短絡の誘因となります。一般的には、交流電圧30V、直流電圧42.4Vを超える回路で、その回路からアースへ流れる電流が0.5mAを超えると感電事故を起こす危険があります。

3. 弱電の高電圧回路測定についての警告

⚠警告: 弱電回路(家電製品や電子機器の回路で電気容量の小さい回路)でも、高電圧回路(100V以上)は危険です。感電のおそれがあるため、活線部分には触れないよう充分ご注意ください。

4. 弱電の高電圧回路の測定手順の厳守

⚠警告: 測定の際は、次の手順を守り安全な測定をしてください。

- ① 測定の前に、測定回路の電源をOFFにします。
- ② レンジ切換スイッチを **☹ V/EF** の位置に合わせます。
- ③ 赤・黒テスト棒先端にワニグチクリップ(別売)を付けます。
- ④ 測定回路の電源がOFFであることを確認してから、アース(-)側に黒色ワニグチクリップ、高電位(+)側に赤色ワニグチクリップをはさんで接続します。
- ⑤ 本体は手に持たず、安定した所に置きます。測定回路に手や身体、テスト棒などが触れないように十分な距離をとります。
- ⑥ 測定回路の電源をONにします。本体表示板の測定値を読み取ります。

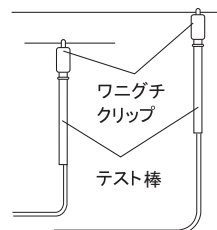


図-5

- ⑦ 測定回路の電源をOFFにします。測定回路から赤・黒のワニグチクリップ(テスト棒)を外します。

■やむを得ず活線(電圧のかかっている回路)を測定する場合は、下記の手順を厳守してください。

- ① 絶縁手袋を着用します。
- ② 本体は手に持たず、安定した所に置きます。
- ③ レンジ切換スイッチを **☹ V/EF** の位置に合わせます。
- ④ 黒色テスト棒先端に黒色ワニグチクリップ(別売)を付け、測定回路のアース(-)側にはさんで接続します。
- ⑤ 測定回路に手や身体、テスト棒などが触れないように十分な距離をとります。
- ⑥ 赤色テスト棒を片手に持って、測定回路の高電位(+)側に接触させます。
- ⑦ 本体表示板の測定値を読み取ります。
- ⑧ 測定が終わったら赤色テスト棒を測定回路から外し、次に黒色ワニグチクリップ(テスト棒)を外します。

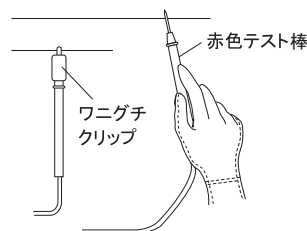


図-6

4-2. テスターの故障防止

次の3つの項目はテスターの故障を防止するだけでなく、測定する人の感電事故を防止する点からも重要ですので厳守してください。

1. レンジ切換スイッチのミス設定の防止

⚠警告: 測定する時、レンジ切換スイッチが正しい位置に設定されているか確認してください。特に **Ω/•|||/⚡/H** の位置で、電圧を測定しないでください。

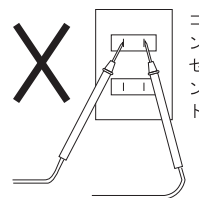


図-7

2. 最大測定値の厳守

⚠警告：各レンジでは、測定仕様記載の最大測定レンジを超えた測定をしないでください。

3. テスト棒を回路から事前に外すこと

⚠警告：測定中にレンジ切換スイッチを動かすとき、または、電池の交換のためにバッテリーカバーを開ける時には、必ず事前にテスト棒を測定回路から外してください。

⚠ 警告

- 電気測定の知識と経験のない人、子供には使用させないでください。
- 裸足や上半身裸で使用しないでください。感電事故の原因となります。
- 分解や改造はしないでください。
- テスト棒の先端は尖っており大変危険です。目などに刺さらないようご注意ください。

⚠ 注意

- 本製品の構造は精密です。強い振動や衝撃を与えず、車中や高温多湿な場所での使用および保管は避けてください。
- 本製品をこすり、ベンジン、アルコールなどの溶剤で拭かないでください。
- 本製品を長期間使用しない時は電池を取り外してください。消耗した電池を内蔵したまま放置すると、電解液が漏出して内部を腐食することがあります。
- 表示板を指で押したり、尖った物で刺したりしないでください。破損の原因となります。

5. 測定方法

5-1. 測定準備

1. 取扱説明書の精読

このテスターの測定仕様及び機能を正確に理解してください。特に、「4.安全測定と使用上のご注意」をよく読んで安全な測定をしてください。

2. 電池

このテスターには3V CR2032ボタン電池1個が内蔵されています。電池電圧が規定値以下になると、LCD上に  サインが点灯します。この時は、「6-1.電池の交換」を参照して電池を交換してください。

3. テスト棒

テスト棒をテスト棒保護カバーから出して、測定しようとする電源、回路等に接続して測定します。一般に、黒色のテスト棒をマイナス(－)側、赤色のテスト棒をプラス(＋)側として使用しています。

*テスト棒をしまう場合、リード線を本体に縦に巻いてしまいます。テスト棒は保護カバーに差し込むとうまく行うことができます。

4. オーバーレンジ表示

各レンジ(電気要素)の測定において、仕様レンジの最大値(3000デジット)を超える入力がありますと、OLサインが点灯します。但し、600Vレンジでは600Vを超えるとOLサインが点灯します。

5. オートパワーオフ

レンジ切換スイッチ、表示固定(DH)キー、機能選択キーの操作後約10分経つと、自動的に表示が消えて電池の消耗を防ぎます。しかし、この状態で電池は0.01mW消費しています。測定が終わりましたら、必ずレンジ切換スイッチをOFFにしてください。10分以上の長時間測定をする場合は、機能選択キーを押しながら電源をONにします。この場合、オートパワーオフ機能は解除され、APOサインは消えています。

6. シンボルマーク

このテスターまたは取扱説明書に表示されている次のシンボルは、国政規格のIEC 61010-1及びISO 3864に規定されている記号です。

	警告又は注意記号で「説明書を良く読んでください。」ということを表しています。		
	直流 (DC)		交流 (AC)
	アース (グランド)		二重絶縁

5-2. 直流電圧 (≡V) の測定

⚠ 警告

直流電圧の最大測定値は600Vです。感電事故並びにテスターの損傷を防ぐために、600Vを超える電圧を測定しないでください。600V以下でも、電気容量が6kVA以上の強電回路は危険ですので、測定しないでください。「4.安全測定と使用上のご注意」をよく読み、感電事故とテスターの損傷を防止して、安全な測定をしてください。

- レンジ切換スイッチを  に合わせます。VサインがLCD上に点灯します。
注：SCAN点灯中は交流/直流を本体が自動識別して電圧測定します。
注：この時入力がないのに、意味のない数字が表示されるのはテスターの内部抵抗が高く、ノイズを拾ってしまうためにおこる現象で、故障ではありません。
- 測定しようとする回路の極性を確かめて、(－)側に黒色テスト棒を、(＋)側に赤色テスト棒を接続します。
注：電圧測定の場合、テスターを回路(電源)と“並列”に接続します。
注：危険性がある回路では、テスト棒の先にワニグチクリップ(別売)を付けて回路に接続すると安全に測定できます。
- 測定値をLCD上で読み取ります。
- 機能選択キーを押すと、交流電圧、直流電圧、EF測定と切り換わります。
- 測定が終わりましたら、赤黒のテスト棒を測定回路から外し、レンジ切換スイッチをOFFにします。

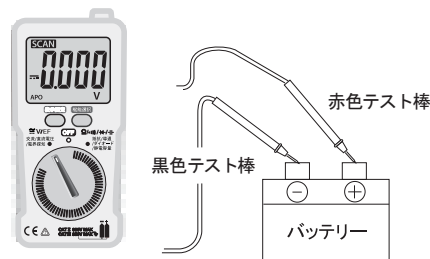


図-8

5-3. 交流電圧 (～V) の測定

⚠ 警告

交流電圧の最大測定値は600Vです。感電事故並びにテスターの損傷を防ぐために、600Vを超える電圧を測定しないでください。600V以下でも、電気容量が6kVA以上の強電回路は危険ですので、測定しないでください。「4.安全測定と使用上のご注意」をよく読み、感電事故とテスターの損傷を防止して、安全な測定をしてください。

- レンジ切換スイッチを  に合わせます。VサインがLCD上に点灯します。
注：SCAN点灯中は交流/直流を本体が自動識別して電圧測定します。
注：この時入力がないのに、意味のない数字が表示されるのはテスターの内部抵抗が高く、ノイズを拾ってしまうためにおこる現象で、故障ではありません。
- 測定しようとする回路の極性を確かめて、(－)側に黒色テスト棒を、(＋)側に赤色テスト棒を接続します。
注：電圧測定の場合、テスターを回路(電源)と“並列”に接続します。
注：危険性がある回路では、テスト棒の先にワニグチクリップ(別売)を付けて回路に接続すると安全に測定できます。
- 測定値をLCD上で読み取ります。
- 機能選択キーを押すと、交流電圧、直流電圧、EF測定と切り換わります。
- 測定が終わりましたら、赤黒のテスト棒を測定回路から外し、レンジ切換スイッチをOFFにします。



図-9

5-4. 検電機能 (EF)

⚠ 警告

感電事故並びにテスターの焼損を防ぐために、600Vを超える電界範囲での検電を行わないでください。600V以下でも、電気容量が6kVA以上の強電回路は危険ですので、使用しないでください。また使用の前には、必ず「4.安全測定と使用上のご注意」をよく読んでください。

- レンジ切換スイッチを  に合わせます。VサインがLCD上に点灯します。
- 機能選択キーを3回押すと検電モードに切り換わります。EFサインがLCD上に点灯します。
- EFセンサー部を測定したい箇所に近づけます。
- 電気の強さにより、4段階のバー表示とブザーで電気の強弱を知らせます。
弱“-”“-”“-”“-”“-”“-”強

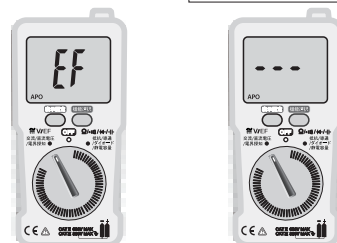


図-10

5-5. 抵抗 (Ω) の測定

⚠ 警告

抵抗(Ω)レンジでは、間違つて電圧を測定しないでください。感電事故やテスターの損傷につながるおそれがあります。管路の内部に接続している抵抗器を測定する場合には、必ず回路の電源を切り、回路内のコンデンサーを放電させてから測定してください。測定の前には、必ず「4.安全測定と使用上のご注意」をよく読んでください。

- レンジ切換スイッチを  に合わせます。LCD上に----が点灯します。
注：SCAN点灯中は  を本体が自動識別して測定します。
- 測定しようとする抵抗器が回路に接続している時には、回路への電源を切り、回路内のコンデンサーを放電させてから、回路から抵抗器の片側を外します。
- 測定しようとする回路、又は抵抗器の両端にテスト棒を接続します。
- 測定値をLCD上で読み取ります。
- 機能選択キーを押すと、抵抗、導通、ダイオード、静電容量測定と切り換わります。
- 測定が終わりましたら、レンジ切換スイッチをOFFにします。



警告

1. レンジ切換スイッチを  に合わせます。LCD上に---- が点灯します。
注：SCAN 点灯中は  を本体が自動識別して測定します。
2. 測定しようとする回路の両端のテスト棒を当てます。コードが断線しているかを調べる場合は、コードの先端のプラグとソケットの同じ線側にテスト棒を当てます。
3. 抵抗器が約30Ω以下であれば、抵抗値を表示し導通を知らせるブザーが鳴ります。
4. ブザーが鳴らない時は、断線か、又は抵抗値が30Ω以上である時です。
5. 機能選択キーを押すと、抵抗、導通、ダイオード、静電容量測定と切り替わります。
6. 導通試験が終わりましたら、レンジ切換スイッチをOFFにします。

警告

1. レンジ切換スイッチを **Ω・m/μ・V** に合わせます。LCD 上に----が点灯します。
注：SCAN 点灯中は **Ω・m/μ・V** を本体が自動識別して測定します。
2. 回路内のダイオードは、回路の電源を切り、コンデンサーを放電させてから、回路からダイオードの片側を外します。
3. 黒色テスト棒をダイオードのアノード側に、赤色テスト棒をカソード側に接続（逆方向接続）すると、LCD 上にOLを表示します。
4. テスト棒を3.と逆に接続します（順方向接続）。通常シリコンダイオードは0.4V〜0.7Vを、ゲルマニウムダイオードは0.1V〜0.4Vを表示します。この場合、そのダイオードは正常であると判定します。
5. 機能選択キーを押すと、抵抗、導通、ダイオード、静電容量測定と切り換わります。
6. ダイオードテストが終わりましたら、レンジ切換スイッチをOFFにします。



警告

1. レンジ切換スイッチを  に合わせます。LCD上に----が点灯します。
注：SCAN 点灯中は  を本体が自動識別して測定します。
2. 測定しようとするコンデンサを放電させます。測定しようとするコンデンサの片側を回路から外して、テスト棒を接続します。
3. 測定値をLCD上で読み取ります。
4. 機能選択キーを押すと、抵抗、導通、ダイオード、静電容量測定と切り換わります。
5. 測定が終わりましたら、レンジ切換スイッチをOFFにします。
注：静電容量が大きくなると測定時間が長くなります。

警告

1. 測定を終了し、テスト棒を測定回路から外して、テスターの電源をOFFにします。
2. 本体裏側のネジを外し、リアケースを外します。
3. 新しい3V CR2032ボタン電池1個を+（プラス）側を上にして入れます。

注：電池は規格にあったものを使用してください。

基板

* リード線が外れた場合、図のように入れます。

3V CR2032
ボタン電池1個

图-13

安全で正確な測定を維持するためには定期的な点検・校正が必要です。
本製品は、通常の使用で1年以上許容誤差内の精度を維持できるよう製造されていますが、少なくとも1年に1回は定期的に点検・校正してください。点検・校正は製造元へ依頼されるのが確実な方法です。



- 直射日光が当たる場所や暖房器具のすぐそばなど、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
- 長期間この機器を使用しないときは、本体から電池を取り出す。
- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示（＋と－の向き）に注意し表示どおりに正しく入れる。使用推奨期限内の電池を使用する。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れない。
- 電池は、金属製のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアピンなどと一緒に携帯、保管しない。
- 乳幼児の近くや手の届く場所に置かない。万一、電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談する。

保証書

持込修理 無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
2. 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
- (イ) 使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造等による故障及び損傷
- (ロ) お買上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
- (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛り等による故障及び損傷
- (二) 消耗または摩耗した部品、付属品の交換
- (ホ) 本書のご提示がない場合
- (ヘ) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合(但し、販売シールや領収証でも未記入項目の代用となります。)
- (ト) 本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
- (チ) 一般家庭用以外(例:業務用、または業務用に準ずる使用方法)で使用された場合の故障及び損傷
- ご贈答、ご転居等で本保証書に記入のお買上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
5. 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	AC検電デジタルテスター		★お買い上げ日:	年	月	日
型番	TST-TAC26	品番	08-1290	保証期間: 本体1年間(お買い上げの日から)		
お客様様	★お名前					様
	★ご住所 〒					ー
						電話 ()
修理メモ						
販売店	★住所 店名 電話					
						

(注)★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

- ※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無条件修理をお約束するものです。
- ※この保証書は修理で保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- ※保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お買い上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
- ※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。


株式会社 オーム電機
 〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
<http://www.ohm-electric.co.jp>

●通話料無料 ●旗牌・IP・公衆電話からは
0120-963-006 048-992-2735

電話 平日 9:00~17:00
受付 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

修理に関するご相談は 修理ご相談センターへ
電話 048-992-3970 平日 9:00~17:00
受付 ※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます